

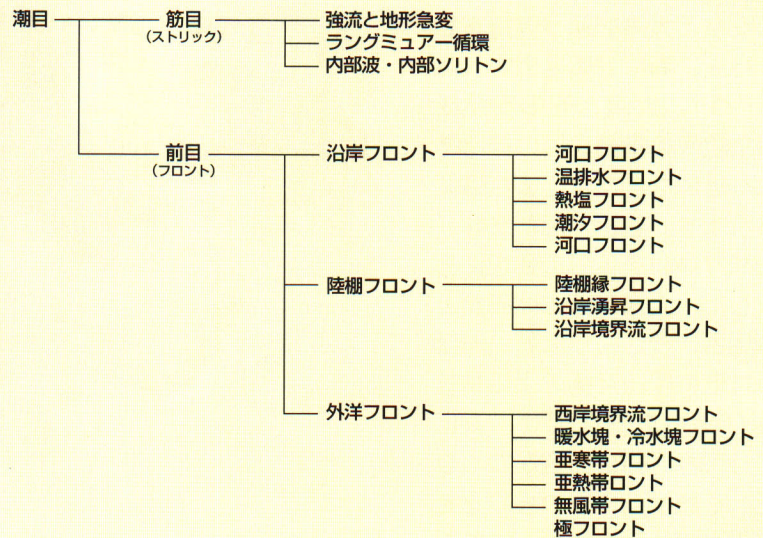
(1) 潮目とは

潮目とは、細長く伸びた海面上の筋で、その筋に沿って独自の波が立ったり、流れ藻やゴミ、泡などが集まっている場所をいいます。

できる要因によってさまざまなものが知られていますが、本施設の展示テーマとしている「潮目」は黒潮・親潮という性質の異なる大きな流れによってできる潮目です。この二つの大きな流れによってできる潮目は互いに勢力が強く、出会った後も混じり合わず互いに分かれて太平洋を東へと流れていきます。

また、身近なところにも潮目は存在しています。例えば、河口にできる真水と海水の境目や、発電所等から出る暖かい水と海水の境目等でも見ることができます。一口に「潮目」といってもさまざまなものがあります。

■潮目の種類



※柳哲雄氏による

(2) 黒潮と親潮

フィリピン沖を起源とし、日本の南岸から東方に向かって流れる大きな暖かい流れが黒潮です。黒潮は、流速約5km/h、幅が100kmにもなるところがある世界有数の強い流れです。また、平均水温が約20℃にもなるととても暖かい海流で、とても多くの種類の生き物たちが生活しています。一方、親潮は、ベーリング海やオホーツク海

を起源とする北から南下する冷たい海流です。流速は約1km/hと黒潮に比べてもゆっくりとした流れで、平均水温が約5℃の冷たい海流です。

ここはプランクトンが大量に発生し、それをエサとする魚たちが集まる水産資源の豊かな海域となっています。



▲黒潮と親潮

(3) 潮目の海の恵み

親潮の源流域では、海水の湧昇や鉛直混合により深層の栄養塩豊かな海水が表面近くまで昇ってきます。この栄養塩豊かな海水を起源とする親潮に、春から初夏にかけて太陽のエネルギーが降り注ぎ、大量の植物プランクトンが発生します。さらにそれらをエサとする動物プランクトンも大発生し、回遊魚たちがそのエサを目指し、南の海から潮目の海を越えやってきます。やがて、プランクトンを

食べ産卵の地を目指す回遊魚たちは、潮目という大きな壁にぶつかることになります。

この海域は、温度差が多いところで10℃以上もあり、さらに塩分も異なるため魚たちにとっては大きな壁なのです。従って、回遊魚たちはできるだけ温度差の少ない場所を通して南の海に戻ろうとします。温度差の少ない場所は魚が集まる場所となり、この場所は漁をする最適な場所となります。



▲イワシの回遊